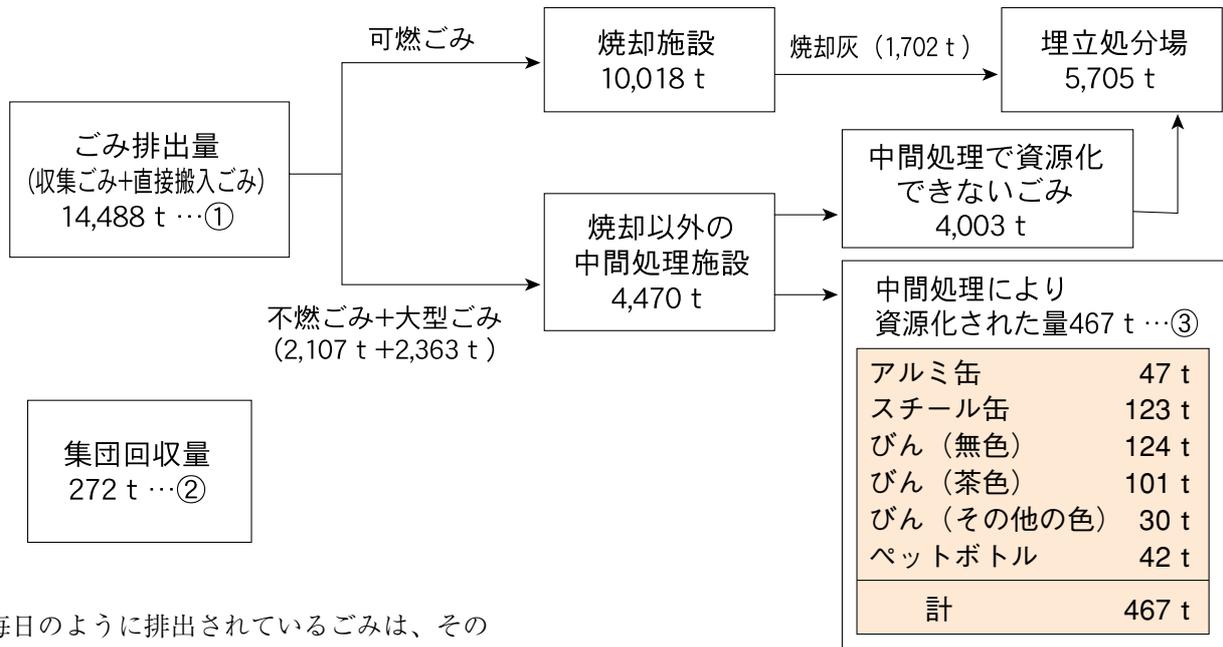


ごみ処理の流れ



毎日のように排出されているごみは、その種類によって、各処理施設に運ばれていきます。

- 可燃ごみ 焼却施設で焼却し、残った灰は、埋立処分場へ運ばれます。
- かん類 アルミ缶、スチール缶に選別、圧縮して再利用します。
- びん類 無色、茶色、その他の色に選別して再利用します。
- ペットボトル 衣類、インテリア、建築資材として再利用します。
- 埋立ごみ・大型ごみ 破砕、圧縮して、埋立処分場へ運ばれます。



● リサイクル率 ●

$$\frac{\text{中間処理により資源化された量} + \text{集団回収量}}{\text{ごみ排出量 (収集ごみ+直接搬入ごみ)} + \text{集団回収量}} \times 100\%$$

例：平成13年度

$$\frac{\text{③ } 467 \text{ t} + \text{② } 272 \text{ t}}{\text{① } 14,488 \text{ t} + \text{② } 272 \text{ t}} \times 100\% \div 5\%$$

平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度
4%	4%	4%	4%	5%

庭がある方は、できるだけ生ごみを庭に埋めましょう。土中の微生物が分解して、養分いっぱい堆肥ができます。また、「電気式生ごみ処理機」「生ごみ処理容器（コンポスト）」、「生ごみ処理バケツ」を使っても、堆肥ができます。

生ごみのリサイクル

生ごみは、可燃ごみの中でも大きな割合を占めています。水分を切ったり、堆肥化したりすることで、生ごみはかなり減ります。

家庭での「ごみ減らし」のカギは生ごみ

減らそう
生ごみ

